2016年3月期
（2015年度）

第3四半期
決算概要

RICOH
imagine. change.

新たにリコーグループに加わったAnaJet社のDTGプリンター「mPower mP10i」

2016年2月1日
株式会社リコー

本資料に関する注意事項

RICOH imagine. change.

本資料に記載されている、リコー（以下、当社）現在の計画、見通し、戦略などのうち、歴史的事実でないものは、将来の業績に関する見通しであり、これらは、現在入手可能な情報から得られた当社の経営者の判断に基づいております。

従って、実際の業績はこれらと異なる結果となる場合がありますので、これら業績見通しにのみ全面的に依拠なさらないようお願い致します。

実際の業績に影響を与えうる重要な要素には、 a）当社の事業領域を取り巻く経済情勢、景気動向、 b）為替レートの変動、 c）当社の事業領域に関連して発生する急速な技術革新、 d）激しい競争にさらされた市場の中で、顧客に受け入れられる製品・サービスを当社が設計・開発・生産し続ける能力、などが含まれます。ただし、業績に影響を与えうる要素はこれらに限定されるものではありません。 （参照:「事業等のリスク」www.ricoh.com/ja/IR/risk.html ）

本資料に他の会社・機関等の名称が掲載されている場合といえども、これらの会社・機関等の利用を当社が推奨するものではありません。

本資料に掲載されている情報は、投資勧誘を目的にしたものではありません。
投資に関するご決定は、ご自身のご判断において行うようお願い致します。

＊当連結会計年度より、一部のリース取引を総額表示から純額表示に変更しております。
これに伴い、該当する過去の売上実績、またこれに関連する指標・数値については遡及表示しております。

(C)2016 Ricoh Company, Ltd. All Rights Reserved

2016年3月期 第3四半期累計 ＜概略＞

RICOH imagine. change.

- ✓ 売上高：16,438億円、前年同期比＋4.6%
  画像＆ソリューション分野、産業分野が拡大
- ✓ 営業利益：854億円、前年同期比▲0.7%
  厳しい事業環境、為替影響などにより減益となったが、
  構造改革進展による経費削減効果を想定以上に創出
- ✓ 当期利益：514億円、前年同期比▲1.8%
- ✓ 通期見通しは、売上高を修正、利益見通しは変更なし
  全社構造改革進展による経費削減、稼働台数増加による
  ノンハード収益改善などで利益達成見込み
- ✓ 期末配当金見通しも変更なし

(C)2016 Ricoh Company, Ltd. All Rights Reserved

P3も合わせて参照ください

- 2016年3月期第3四半期決算について
- 売上高は、1兆6,438億円（前年同期比+4.6%）の増収となりました。
- 画像Tソリューション分野、産業分野で拡大しています。
- 営業利益は、854億円（前年同期比−0.7%）の減益となりました。
  厳しい事業環境、為替影響などにより減益となりましたが、
  構造改革進展による経費削減効果を想定以上に創出することができました。
- （親会社の所有者に帰属する）当期利益は、
  514億円（前年同期比−1.8%）の減益となりました。
- 通期見通しは、売上高を修正、利益見通しについては変更しません。
  全社構造改革進展による経費削減、稼動台数増加によるノンハード収益改善などで
  利益達成を見込んでいます。
- したがって、期末配当金見通しも変更はありません。

2016年3月期 第3四半期累計 主要指標

RICOH imagine. change.

	FY16/03 Q3累計実績	前年同期比
売上高	16,438億円	+4.6%
営業利益	854億円	▲0.7%
営業利益率	5.2%	▲0.3pt
当期利益（親会社の所有者に帰属）	514億円	▲1.8%
EPS	70.93円	▲1.29円
FCEF ＊	69億円	+382億円
研究開発投資	865億円	▲3億円
設備投資（有形固定資産）	616億円	+66億円
減価償却費（有形固定資産）	525億円	▲7億円
平均為替レート 1USドル	121.67円	+14.83円
1ユーロ	134.42円	▲5.84円

為替除く売上高 前年同期比	
日本	▲0.6%
米州	▲2.6%
欧州	+5.9%
その他	+8.0%
合計	+1.2%

＊FCEF (Free Cash flow Excluding Finance business) :ファイナンス事業を除くフリーキャッシュフロー

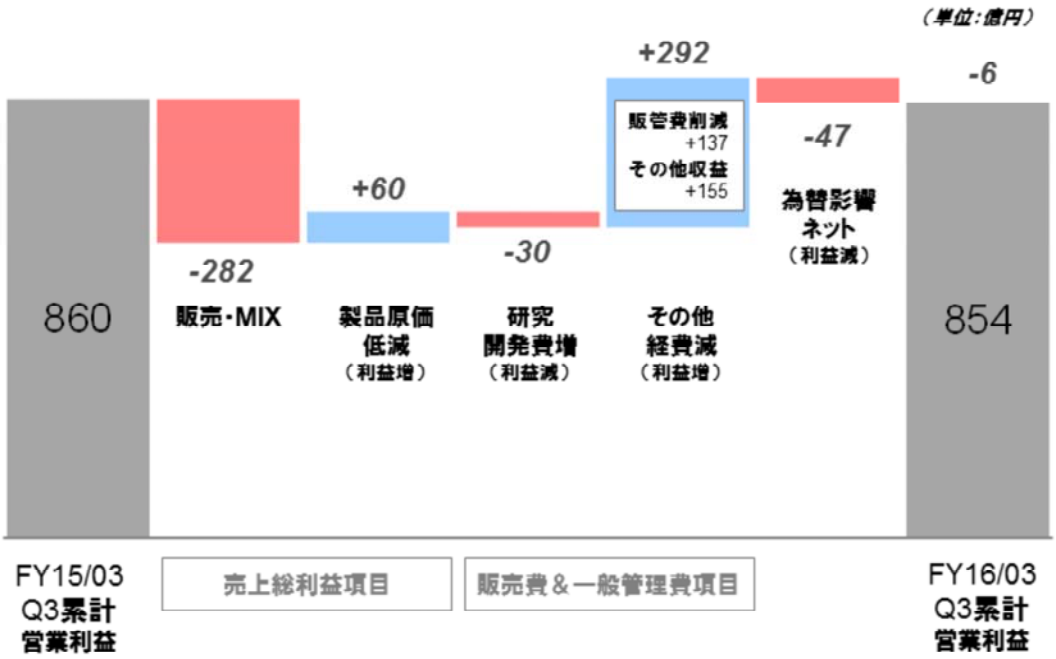
(C)2016 Ricoh Company, Ltd. All Rights Reserved

- 主な経営指標について、
  売上高は、1兆6,438億円（前年同期比+4.6%）の増収となりました。
  各地域における為替を除く売上高は、
  日本と米州（日本：−0.6%、米州：−2.6%）は減収、
  欧州とその他（欧州：+5.9%、その他：+8.0%）は増収となりました。
  為替を除く売上高合計は+1.2%の増収となりました。
- ファイナンス事業を除くフリーキャッシュフローは、69億円の収入を確保しました。
  前年同期比で、382億円の改善ができました。
- 研究開発投資、設備投資は、コントロールしながら実施しています。
- 平均為替レーは、1USドル　121.67円　となり前年と比較し円安に、
  1ユーロ　134.42円　となり前年と比較し円高になりました。

2016年3月期 第3四半期累計 営業利益前年比増減

RICOH imagine. change.

・拡販施策展開、競争激化、為替影響などにより減益
・グループを挙げた構造改革活動による経費削減効果を想定以上に創出



(C)2016 Ricoh Company, Ltd. All Rights Reserved

2016年3月期 第3四半期累計の営業利益854億円について、前年比増減をご説明します。

＜販売・MIX＞

- 販売・MIXは、282億円の減益となりました。2Qと比較しても改善傾向にあります。
  主な要因は、事業環境悪化と競争激化によるMFPハードの利益減によるものです。
  ただし、MIF拡大施策はコントロールしながら展開しており、海外極の地域別営業利益は四半期ごとに改善しています。

＜製品価減低減＞

- 製造原価低減の活動で、60億円の利益を創出しました。ほぼ予定どおりです。

＜研究開発費＞

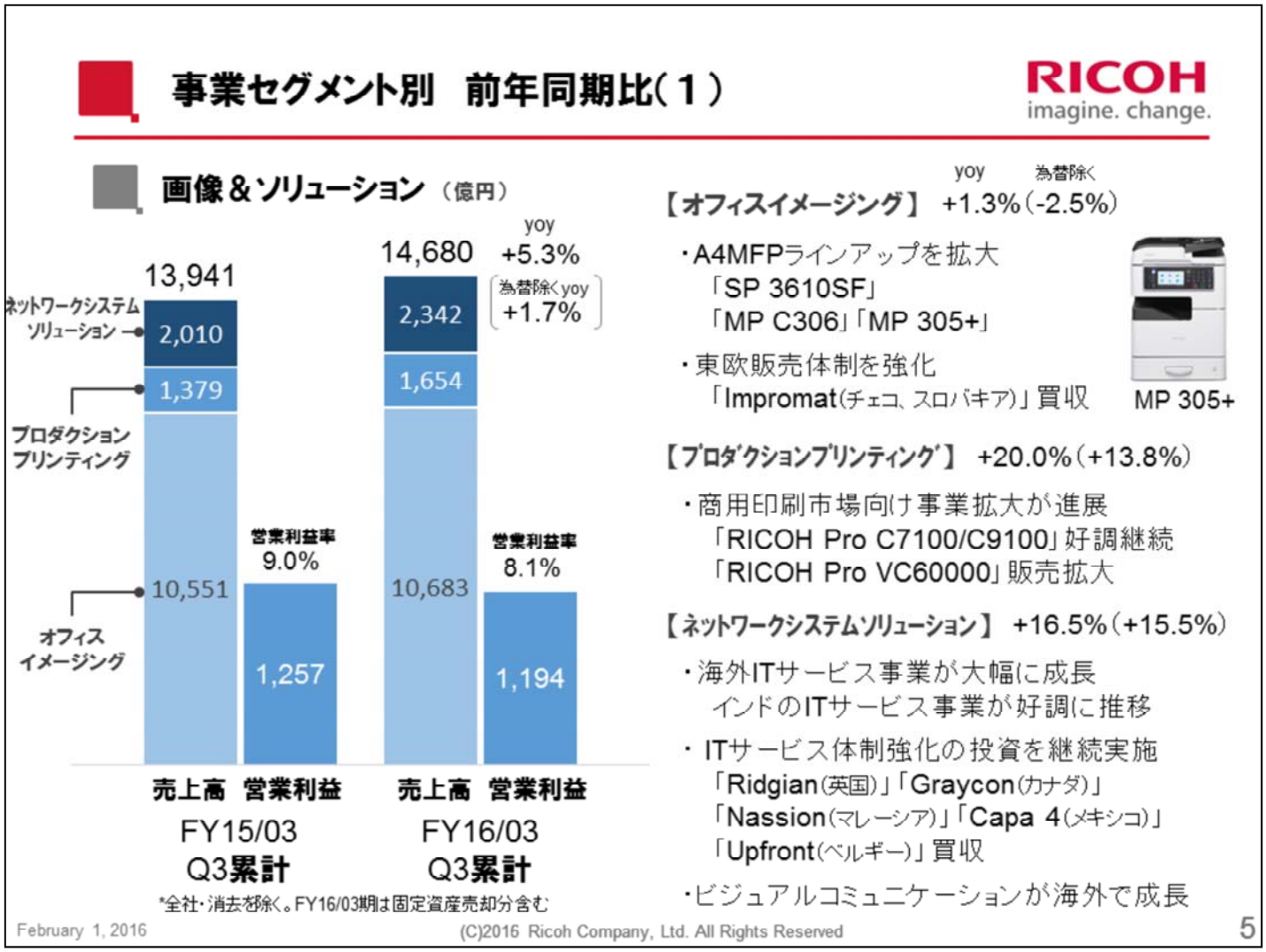
- 研究開発費は、30億円の費用を支出しましたが、予定どおりです。

＜その他経費＞

- その他経費は、前年同期比で292億円増益に寄与しています。
  これは、全社構造改革による経費削減が予定以上に進んだためです。
  サービス・新興国体制強化やM&Aなどによる費用増がある中、経費削減を進め、ネットで経費減となりました。

＜為替影響＞

- 為替による減益効果の影響が47億円ありました。
  要因として、ドル・ユーロ以外のローカル通貨の対ドル安が減益に効いています。
- 為替変動を除くと、3Q（10-12月）は経費削減の進展で、
  社内想定より若干上振れて着地しました。



＜画像＆ソリューション＞

- 売上高は、1兆4,680億円、前年同期比+5.3%（為替除く：+1.7%）の増収となりました。
- 営業利益は、1,194億円、前年同期比−5.0%の減益となりました。
- 営業利益率は、前年同期比より低い8.1%となりました。
- 増収の要因は、PP（プロダクションプリンティング）、ITサービス、VC（ビジュアルコミュニケーション）といった成長領域の拡大が大きく寄与しています。
- 減益の要因は、MFPハードの競争激化の影響などによります。

＜オフィスイメージング＞

- 売上高は、1兆683億円、前年同期比+1.3%の増収、為替を除くと−2.5%の減収となりました。
- 減収の要因は、MFPハードの競争激化やプロダクトミックスの変化に伴う影響などによります。

＜プロダクションプリンティング＞

- 売上高は、1,654億円、前年同期比+20.0%（為替除く：+13.8%）の増収となりました。
- 増収の要因は、カラーCS（カットシート）とCF(コンティニュアスフォーム：連帳機)のハード販売の拡大と、それに伴うノンハード増加によるものです。

＜ネットワークシステムソリューション＞

- 売上高は、2,342億円、前年同期比+16.5%（為替除く：+15.5%）の増収となりました。
- 増収の要因は、海外ITサービス事業の拡大によるものです。
引き続き各極において、継続的な買収により体制強化を実施しています。
また、VCと組み合わせたサービス・ソリューション提案の事例も増えてきています。

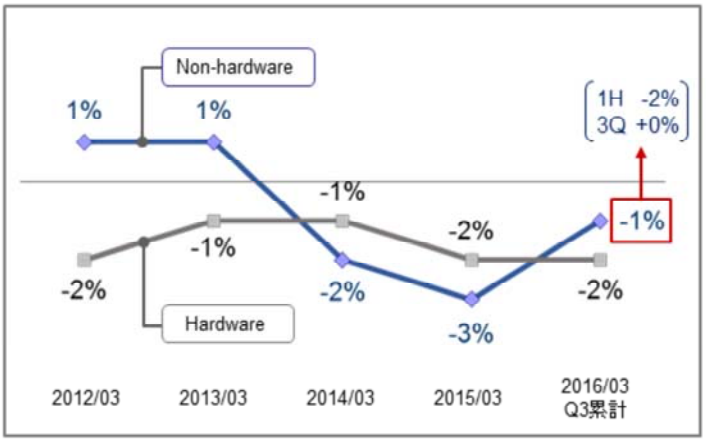
（補足）画像機器ハード・ノンハード推移

RICOH imagine. change.

PP拡大とMFP MIF拡大により、ノンハードは回復傾向。Q3ノンハード売上伸び率は前年同期比フラットに

【MFP・プリンター・PP計 売上高前年比伸び率推移】

（金額ベース、為替除く）



➡ 詳細は別冊補足資料を参照

（FY16/03 Q3累計概況）
- A3カラーMFP、A4MFPの販売台数が拡大
- PPはカットシートカラー機が大幅伸張、ノンハードも継続拡大
- 米州はPPの貢献、欧州はハード拡大でノンハードは回復基調
- その他（AP&中国）はノンハードが堅調に拡大

（参考）製品別 FY16/03 Q3累計実績

	ハード			ノンハード	
	台数	金額	→3Qのみ	金額	→3Qのみ
MFP	+1%	-5%	-8%	-3%	-1%
プリンター	+11%	+2%	+8%	-1%	-3%
PP	+8%	+20%	+31%	+9%	+11%
合計		-2%	-2%	-1%	+0%

（金額は為替除く）

（参考）地域別 FY16/03 Q3累計実績

	ハード	ノンハード
日本	0%	-3%
米州	-10%	0%
EMEA	+8%	-1%
その他	-1%	+4%
合計	-2%	-1%

（金額ベース、為替除く）

*四半期推移は別冊補足資料を参照

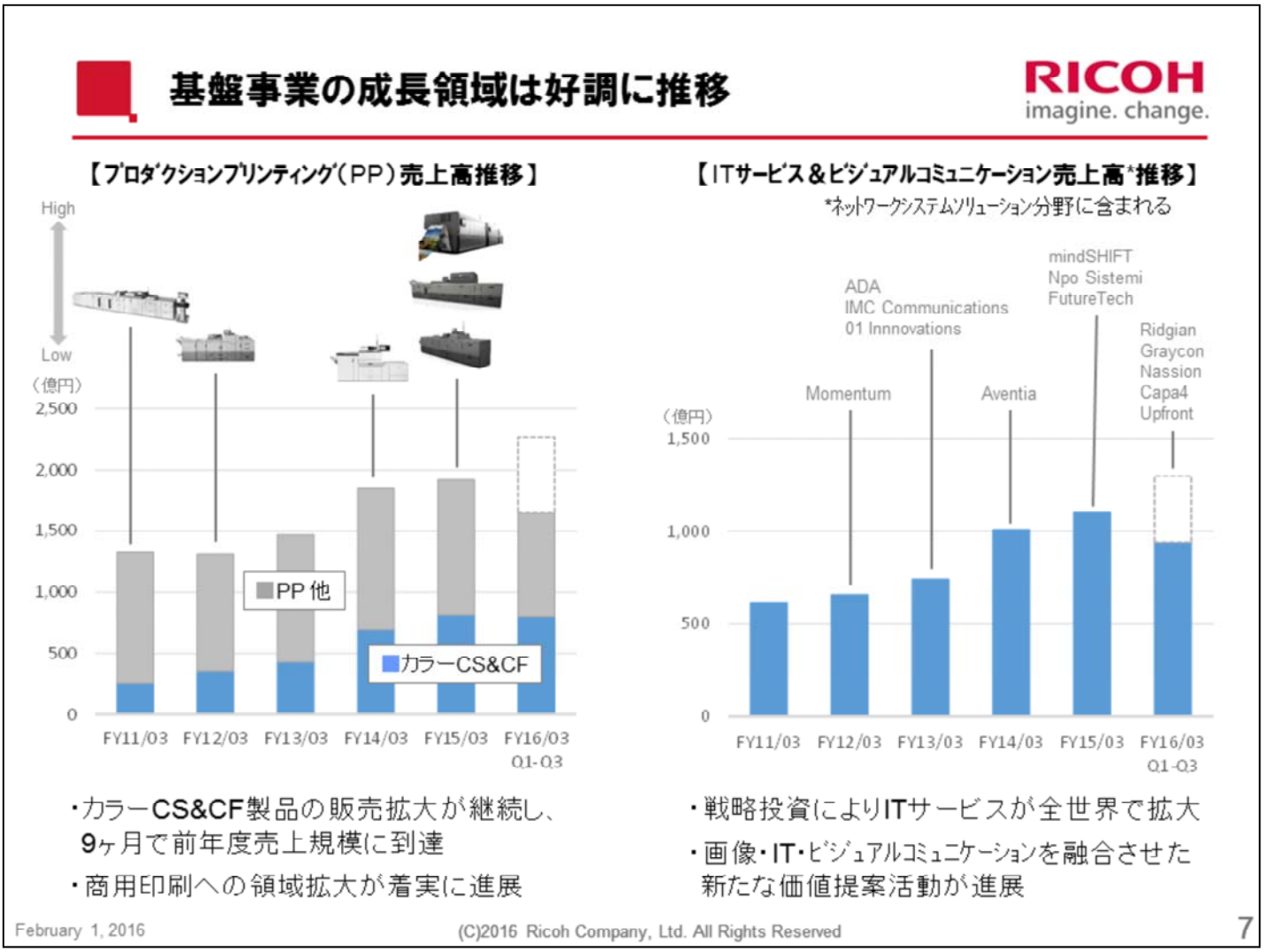
(C)2016 Ricoh Company, Ltd. All Rights Reserved

画像機器のハード・ノンハードの前年同期伸び率の推移をご説明します。

年度および9ヶ月累計の推移を示しています。

- MFPについては、A3カラーMFP、A4MFPの販売台数が拡大し、
  台数は+1%伸びましたが競争激化の影響を受け、金額ではハードは−5%となりました。
  ノンハード−3%は、9ヶ月累計では−3%でしたが、3Qでは−1%と改善してきました。
- PPについては、カラーカットシート機が大幅に伸張し、
  ノンハードも継続して拡大しています。
  PPノンハードの拡大が、画像機器全体のノンハードを牽引しています。
  3Qの画像機器（MFP/プリンタ/PP）合計のノンハードは、プラスに転じ、
  累計の伸び率も改善しています。

3Qはこれまで進めてきたMIF拡大施策の効果が現れてきました。

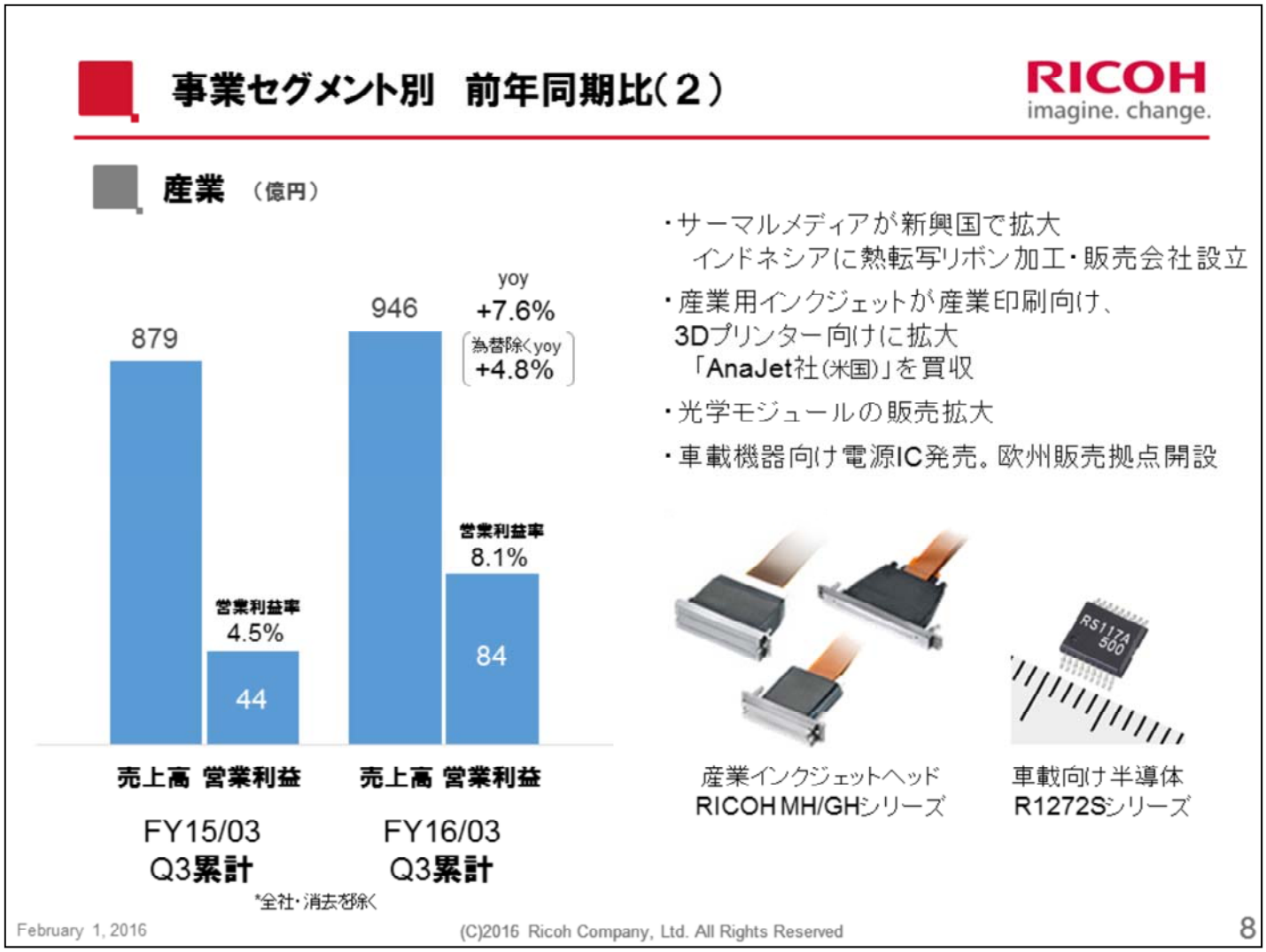


＜プロダクションプリンティング＞

- カラーCSとCF製品の売上は、3Q累計で前年度12ヶ月の売上規模にせまる状態まで拡大しています。

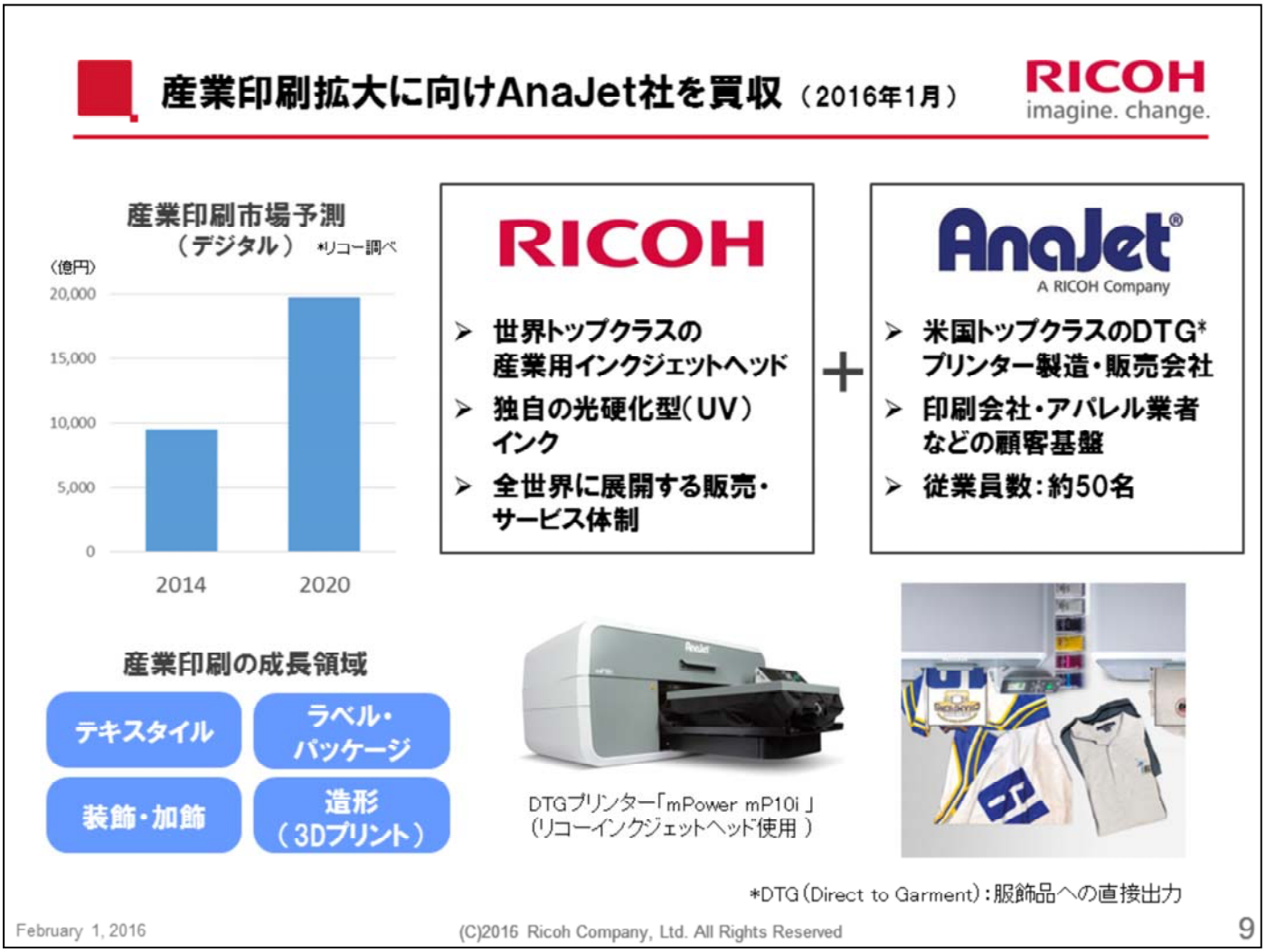
＜ITサービス＆ビジュアルコミュニケーション＞

- ITサービス＆VCは高い成長を維持しており、これによりネットワークシステムソリューション全体が牽引されています。
- M＆Aを含む戦略投資によってITサービスが全世界で拡大しています。
- 画像・IT・VC全体を包含したトータルソリューション提案や業種業務に最適化された新たな価値提供が着実に拡大しており、この点が競合他社に対しての大きな差別化ポイントになっています。



＜産業分野＞

- 売上高は946億円で前年同期比+7.6%（為替除く:+4.8%）の増収、
  営業利益は84億円で前年同期比+90.4%の増益を達成し、
  営業利益率も8.1%と前年同期に比べて3.6ポイント改善しています。
- 増収の要因は、サーマルメディアと産業向けインクジェットの売上の
  確実な拡大によるものです。
- 増益の要因は、サーマルメディアと産業向けインクジェットの利益拡大に加えて
  半導体事業の利益改善によるもので、結果、営業利益は84億円となりました。
- 主な取り組みとして、サーマルメディアでは、インドネシアに加工工場・販売会社設立し、
  エマージングマーケット全体をカバーし販売を着実に拡大しています。
- 産業用インクジェットも産業印刷向けや3Dプリンター向けに着実に拡販しています。
  また、今年1月に 「AnaJet（米国）」社の買収を発表しました。
- 光学モジュールでは、FA（ファクトリー・オートメーション）向けや車載向けの販売が
  着実に伸びています。
- 半導体では、車載向け電源ICが伸び、欧州での拡販も確実に実績を出しています。

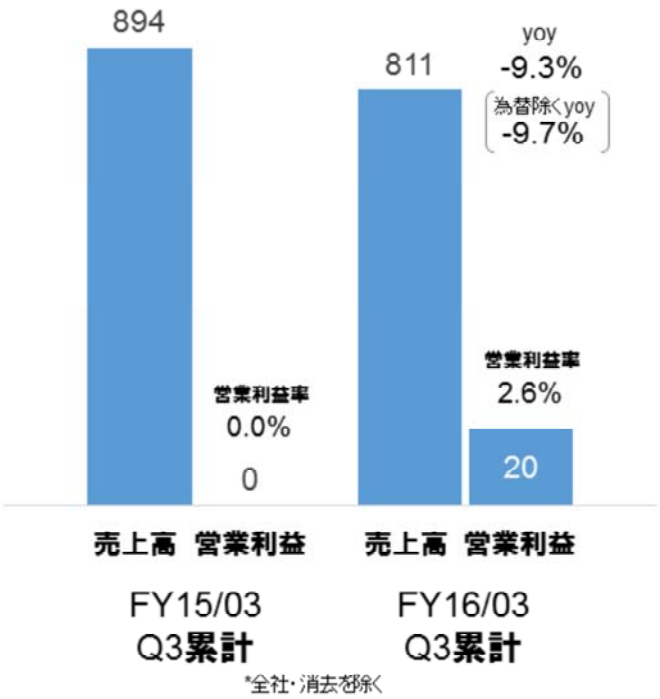


- 「AnaJet」社買収に関連して、産業印刷への取り組みを紹介します。
- 産業印刷は今後高い成長が期待でき、デジタルによる産業印刷市場は2014年から2020年に向けて2倍に成長すると見込んでいます。
- その中で「テキスタイル」「ラベル・パッケージ」「装飾・加飾」「造形（3Dプリント）」を成長領域として取り組んでいます。
- リコーは、世界トップクラスの産業印刷向けのインクジェットヘッドと、これに対応した独自の光硬化型（UV）インクをもつという強みを活かしながら、これらの領域で必要な戦略投資を実施していきます。
- 一環として、テキスタイル向け事業を展開する「AnaJet」社を買収しました。
- そのAnaJet社は、米国トップクラスのDTG（Direct to Garment）、服飾向け直接印刷のプリンターを製造・販売している会社で、米国のアパレル業界で強固な顧客基盤があります。

事業セグメント別　前年同期比（３）

RICOH imagine. change.

その他 （億円）



・衣料事業売却影響により減収

・リコーならではのカメララインアップを強化
　ハイエンドコンパクトカメラ「GR II」
　防水・耐衝撃対応「RICOH WG-40W」

・カメラ事業で全天球画像ソリューションを拡充
　「THETA S」全天球動画処理・画質を強化
　B2Bソリューションを拡大（不動産など）

RICOH WG-40W　　RICOH THETA

(C)2016 Ricoh Company, Ltd. All Rights Reserved

＜その他分野＞

- 売上高は811億円で前年同期比−9.3%（為替除く:−9.7%）の減収でしたが、営業利益は20億円で大幅な増益、営業利益率も2.6%と前年同期比で大きく改善しています。
- 従来どおりカメラはニッチな分野を狙って展開しています。全天球カメラ「THETA S」は、引き続き好調に拡大しています。

連結財政状態計算書(1)

RICOH imagine. change.

資産の部

(単位:億円)	2015年12月末	15/03末比増減額
流動資産	12,639	+475
現金及び預金	1,631	+245
営業債権及びその他の債権	5,491	△43
その他の金融資産	2,690	+90
棚卸資産	2,348	+103
その他の流動資産	477	+80
非流動資産	15,300	+162
有形固定資産	2,795	+29
のれん及び無形資産	4,323	△34
その他の金融資産	6,251	+233
その他の非流動資産	1,930	△66
資産合計	27,940	+638

(15/03末比増減)

(参考)期末日為替レート: US$ 1 = ¥ 120.61 (+ 0.44)
EURO 1 = ¥ 131.77 (+ 1.45)

【3Qまでの取り組み】

＜現金及び預金＞
・2Qの一時的な現金増加は解消

＜その他金融資産(流動、非流動)＞
・ファイナンスビジネス拡大でリース資産増加

＜棚卸資産＞
・前年の米国港湾ストによる在庫は削減進展
・期末＆一括商談用在庫が増加
・回転期間ほぼ横ばい
(2015/3/末:2.16 → 2015/12/末:2.18)

＜資産合計＞
・リース資産増加などで
2015/3/末比 638億円増加

(C)2016 Ricoh Company, Ltd. All Rights Reserved

＜連結財政状態計算書　資産の部＞

- 総資産が638億円増加しています。
- 現金が245億円、リース事業による増加分がその他の金融資産(流動、非流動)で323億円増加しています。
- 棚卸資産の103億円増加については、4Qの販売に向けての在庫の仕込みであり、3月には適切な在庫にしていきます。

連結財政状態計算書(2)

RICOH imagine. change.

負債及び資本合計の部

(単位:億円)	2015年12月末	15/03末比増減額
流動負債	7,784	+63
社債及び借入金	2,725	+504
営業債務及びその他の債務	2,459	△310
その他の流動負債	2,599	△130
非流動負債	8,358	+320
社債及び借入金	6,129	+444
退職給付に係る負債	1,325	△115
その他の非流動負債	902	△8
負債合計	16,142	+383
親会社の所有者に帰属する持分合計	11,094	+253
非支配持分	702	+1
資本合計	11,797	+254
負債及び資本合計	27,940	+638
有利子負債合計	8,854	+948

(15/03末比増減)

(参考)期末日為替レート: US$ 1 = ¥ 120.61 (+ 0.44)
EURO 1 = ¥ 131.77 (+ 1.45)

【3Qまでの取り組み】

＜有利子負債合計＞
・ファイナンス事業拡大に伴う増加
・2015/3/末比 948億円増加

＜親会社の所有者に帰属する持分合計＞
株主資本比率は横ばいを維持
(2015/3/末:39.7% → 2015/12/末:39.7%)

(C)2016 Ricoh Company, Ltd. All Rights Reserved

＜連結財政状態計算書(2)負債及び資本合計の部＞

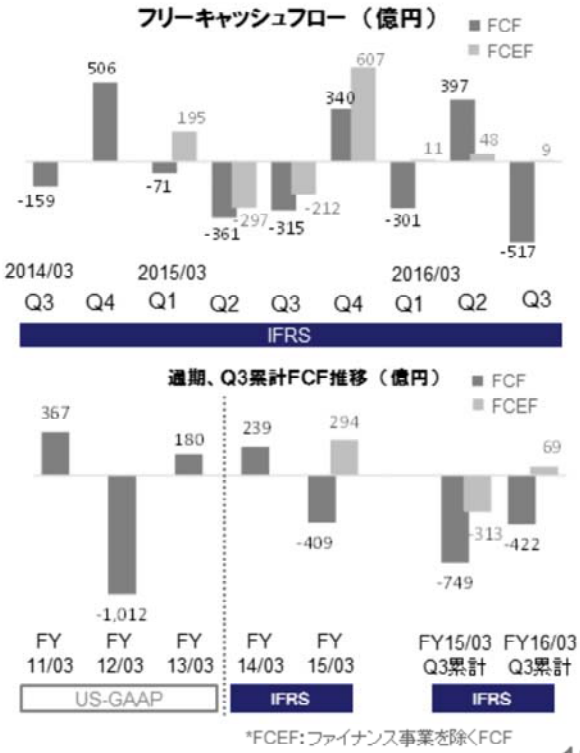
- ファイナンス事業の拡大により有利子負債が948億円増加しています。
- 親会社の所有者に帰属する持分合計は、持分株主資本比率が39.7%と横ばいを維持できており、安全性は確保できています。

連結キャッシュフロー計算書

RICOH imagine. change.

運転資本改善、資産見直し等により、FCEFは前年同期比382億円改善

(単位：億円)	FY2015/03 Apr-Dec	FY2016/03 Apr-Dec
当期利益	568	554
減価償却費	808	812
［当期利益＋減価償却費］	[1,377]	[1,366]
その他の営業活動	-1,020	-1,035
営業活動によるキャッシュフロー	356	331
有形固定資産の購入および売却	-537	-436
事業の買収	-84	-48
その他の投資活動	-483	-269
投資活動によるキャッシュフロー	-1,106	-753
有利子負債の純増減	845	965
支払配当金	-242	-250
その他の財務活動	-7	-31
財務活動によるキャッシュフロー	595	683
換算レートの変動に伴う影響額	118	-11
現金及び現金同等物の純増減額	-35	249
現金及び現金同等物期末残高	1,365	1,626
フリーキャッシュフロー(営業C/F＋投資C/F)	-749	-422
FCEF (Free cash flow excluding finance business)	-313	69



*FCEF:ファイナンス事業を除くFCF

(C)2016 Ricoh Company, Ltd. All Rights Reserved

＜連結キャッシュフロー計算書＞

- FCFは、−422億円で、前年同期の−749億円に比べ327億円の収入増と大幅に改善しています。
- ファイナンス事業を除くと69億円のプラスのキャッシュ創出であり、昨年前年同期に比べ大きく増加しています。

2016年3月期見通し　損益計算書

RICOH imagine. change.

（単位：億円）		FY2015/03 実績	FY2016/03 前回見通し (2015年10月)	FY2016/03 見通し	前年比較 金額差	前年比較 伸び率	前年比較 為替影響除く伸び率
売上高	(国内)	7,595	7,700	7,650	+54	+0.7%	+0.7%
	(海外)	13,918	15,300	14,850	+931	+6.7%	+3.1%
	合計	21,514	23,000	22,500	+985	+4.6%	+2.2%
売上総利益		9,069	9,270	9,070	+0	+0.0%	
	(対売上高%)	42.2%	40.3%	40.3%			
販売費＆一般管理費		7,911	8,110	7,910	-1	-0.0%	
	(対売上高%)	36.8%	35.3%	35.2%			
営業利益		1,157	1,160	1,160	+2	+0.2%	
	(対売上高%)	5.4%	5.0%	5.2%			
税引前利益		1,122	1,110	1,110	-12	-1.2%	
	(対売上高%)	5.2%	4.8%	4.9%			
当期利益（親会社の所有者に帰属）		685	710	710	+24	+3.6%	
	(対売上高%)	3.2%	3.1%	3.2%			
一株当たり当期利益		94.58	97.94	97.94	+3.36		
為替レート	円/1US$	109.89	120.90	121.26	+11.37		
	円/1EURO	138.85	132.57	133.32	-5.53		

＜投資関連＞

(単位:億円)	FY15/03 実績	FY16/03 見通し
研究開発投資	1,187	1,230
売上高比率	5.5%	5.5%
設備投資	759	800
減価償却費 (有形固定資産)	709	700

＜FY16/03 為替レート前提＞

	Q4	年間
1USドル	120.00円	121.26円
1ユーロ	130.00円	133.32円

(C)2016 Ricoh Company, Ltd. All Rights Reserved

＜2016年3月期見通し　損益計算書＞

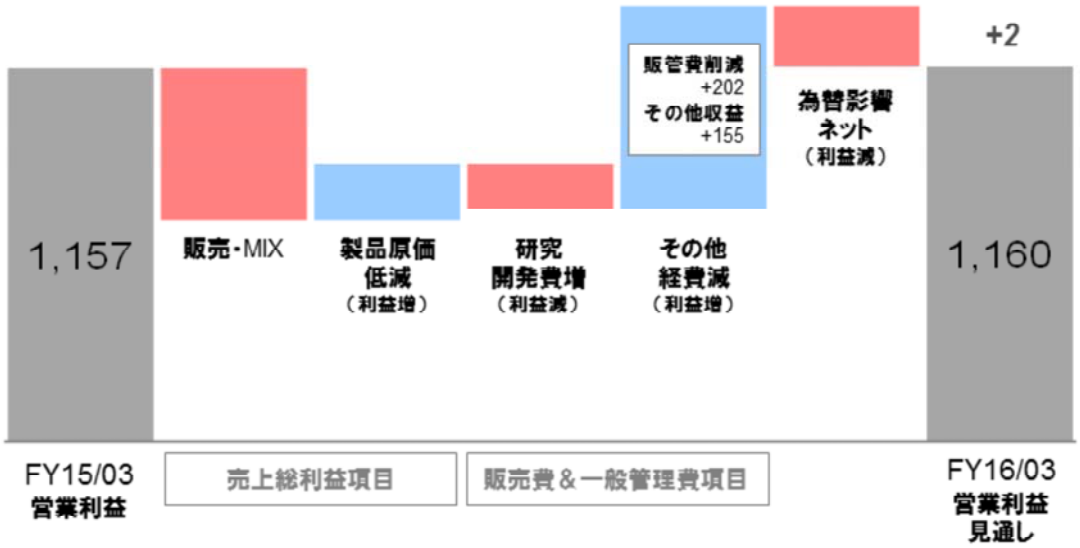
- 2016年3月期の通期業績は、前回見通しの売上高2兆3,000億円を2兆2,500億円と若干下方修正しています。4-9月の売上高の実態を踏まえ、修正していますが、ほぼ達成可能なレベルであるとみています。
- 一方でPPやITサービス、産業分野は堅調に増加しており、MFPノンハードは海外極で回復の傾向がみられます。このような状況を踏まえて、営業利益の1,160億円は据え置きます。
- 3Qまで着実に進んできている構造改革の更なる加速も踏まえ、利益目標を達成していきます。
- なお、4Q前提レートはドル120円、ユーロ130としています。

2016年3月期見通し　営業利益前年比増減

RICOH imagine. change.

（単位：億円）

前回見通し	-188	+100	-80	+278	-107
今回見通し	-267	+100	-80	+357	-107
1H実績	- 222	+ 35	- 31	+ 231	- 10
Q3実績	- 60	+ 25	0	+ 61	- 37
Q4見通し	+ 15	+ 40	- 49	+ 65	- 60



(C)2016 Ricoh Company, Ltd. All Rights Reserved

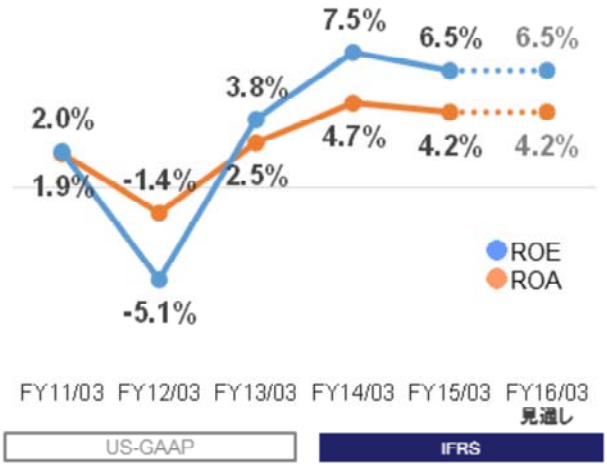
- 販売・MIXは、4Qで+15億円のプラス転換を見込んでいます。
  PPは着実に成長の路線に入っており、ノンハードも利益に貢献し始めています。
  さらに、サービス事業も増収だけでなくサービス効率を上げて利益に貢献する動きが出てきており、MFPについてもMIFの形成活動が功を奏し始めていることから、
  この増益は確保できると考えています。
- その他の経費減も4Qで+65億円の増益効果を見込んでいます。
  さらに追加の削減効果を出していくことも
  継続的に全社構造改革を進めることで実現していきたいと考えています。

（補足）経営指標推移

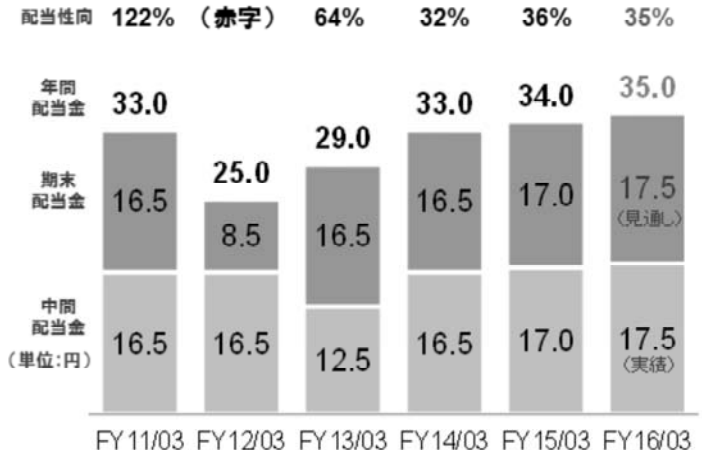
RICOH
imagine. change.

ROE／ROA*

*総資産税引前利益率



一株あたり配当金



(C)2016 Ricoh Company, Ltd. All Rights Reserved

- ROE/ROAと一株あたり配当金は、前回の数値を変更しておりません。

＜主なＱ＆Ａ＞

Ｑ：MFPのノンハード売上高が改善してきているが、ハードウェアの拡販策の効果が出ているという理解で良いか？
Ａ：国内は依然単価下落が厳しいが、海外では市場稼働台数は伸びており、ハードウェア拡販の効果が出てきていると考えている。

Ｑ：第3四半期のMFPハード売上高が現地通貨ベースで-8%となった。将来のノンハード売上高 拡大に貢献する市場稼働台数はきちんと確保できているのか？
Ａ： ハード売上高減収については、A3MFP拡販とともに、A4MFPの出荷が増えたことにより、
ミックス上で単価が低下した面もある。
ただし、ノンハード売上高拡大に貢献する市場稼働台数は着実に獲得できていると考えている。

Ｑ：今回、その他経費減を積み増しているが、そのための施策はどのようなものか？
Ａ：一過性の経費絞込みではなく、業務プロセス改革、購買活動改革などを実施してきた効果である。第4四半期も引続きそれらの活動による効果を織り込んでいる。

Ｑ：今期の経費削減施策は来期以降の業績にもつながるものと考えてよいか？
Ａ：業務プロセス改善などは継続的な取り組みであり、来期以降も経費削減効果を創出できると考えている。

Ｑ：株主還元、非事業資産見直しなどが期待されるが、新たな進捗はあるか？
Ａ：バランシートの見直しは継続して実施している。株主還元についても方針は変わっておらず、キャッシュ創出状況、事業投資のバランスを見ながら判断していく。